

第17回福島県理学療法士会学術集会開催

～各支部、各部門から演題多数 特別講演・ランチョンセミナーなどでも活発な質疑～

平成28年10月2日、第17回福島県理学療法士会学術集会（運営：福島県理学療法士会会津支部・学会長：石渡智之氏）が猪苗代町体験交流館「学びいな」で開催されました。

同学術集会では、口述演題8、ポスター演題10の合計18演題が登録され、幅広い分野から発表が行われました。運動器系や神経系だけでなく、ウイメンズヘルスや癌に関する報告もあり、同学会における演題内容に多様性が出てきた印象がありました。また、分析・解析も熟考されているものも多く散見されていました。

特別講演では弘前大学大学院保健学研究科健康支援科学領域老年保健学分野准教授の対馬栄輝氏をお招きし、「運動器障害に対する理学療法評価を見直す」をテーマに、最新の知見を交えながら、分析や評価方法および理学療法方法に対する疑問・課題提起、理学療法評価・効果の再考について詳しく講義が行われました。同氏は「運動器障害に対する理学療法の再考が必要である。そのための評価も再考しなければならない時期に差し掛かっていると自覚しなければならない」と強調しました。ランチョンセミナーでは、福島県立医科大学の小侯純一氏が「脊椎疾患患者の評価～評価意義と実際～」と題し、臨床場面で見られる現象やその評価方法とその根拠等について詳しく説明され臨床活用できる具体的内容となっていました。シンポジウムでは、「私の理学療法評価～症例から学ぶ～」をテーマに、小児（竹田総合病院・渡邊真生氏）、運動器（ながおさ整形外科・川崎永大氏）、神経（南東北春日リハビリテーション病院・本間一成氏）、心血管（白河厚生総合病院・百足昭一郎氏）、呼吸（南相馬市立総合病院・池田陽一郎氏）、地域（サンライフゆもと・斉藤隆氏）それぞれの分野から、症例を通じた実践内容やその実情・考察について積極的な意見交換が行われました。

また、発表演題の中で、「様々な課題時における腹横筋の筋厚、および筋硬度について」（福島県立医科大学会津医療センター・三浦拓也氏）が学会奨励賞に選ばれました。多角的に分析・考察された研究であり、今後の報告にも期待が集まりました。

会報誌編集委員長 折内英則

